

経済学は大きくマクロ経済学とミクロ経済学に分けられます。ミクロ経済学が、経済の中の個々の市場を主に分析するのに対して、マクロ経済学は経済全体にかかわる問題を分析対象にします。具体的には景気、失業、インフレーション、デフレーション、経済成長などの問題です。例えば、2008年の世界的な金融危機もまたマクロ経済学の分析対象です。地域社会や日本さらに国際社会のかかえる問題を理解し、問題解決のための可能な選択肢とそのメリットとデメリットを考え、市民が賢明な選択をするためにマクロ経済学的な視点は今益々重要性を持ってきています。

マクロ経済学は、経済を4つの市場から成り立ち、それらの市場が相互依存しながら、均衡に向かうものと捉えます。4つの市場とは、財市場、労働市場、貨幣市場とその他の資産市場です。そこで本講では、まず、財市場と（貨幣市場を含む）資産市場との相互依存関係を学び、次に労働市場を加えて、マクロ経済の全体像を理解します。その後、それぞれの市場を詳しく考察して行きます。授業は、講義を中心に言い、適宜、講義内容の復習と理解の確認のために練習問題とその解き方も解説していきます。

本講を受講することによってマクロ経済学の基本を理解し、現実の経済状況と経済政策の影響について、経済専門家の見方ができるようになります。特に、マクロ経済学の基本理論であるIS-LM分析とAD-AS分析を理解して、これを応用して利用できるようになります。

事前に授業計画に記載された各授業内容に関連する練習問題をF Uポータル経由で配信します。事前学習としては、練習問題を事前に読んでおいて、できれば教科書や参考書を使って問題を自力で解いてみてください。事後学習としては、受講後に各授業内容に関連する練習問題を解いて授業の内容理解を確認してください。

成績評価は定期試験の成績のみ（100%の比重）で評価します。

評価基準としては、マクロ経済学への基本的な理解がされていること、具体的には練習問題を解答できることが基準になります。

Abel, Andrew B., Ben S. Bernanke and Dean Croushore,
Macroeconomics, 7th ed. Prentice Hall, 約4,914円、【ISBN:
9780135111420】、グローバル版。（ただし、教科書を読めなくても、講義を受講することでその内容を理解できるように授業を進めていく予定です。）

Macroeconomics, 7th ed. ISBN 9780136114529
エーベル/バーナンキ、「マクロ経済学」上、シーエーピー出版、2006年、
3200円 ISBN 4916092724
エーベル/バーナンキ、「マクロ経済学」下、シーエーピー出版、2007年、
3300円 ISBN 9784916092731

必修の経済学入門及びミクロ経済学を既に履修しているか、同時履修していることを前提に授業を進めます。

以下は暫定的な授業計画ですが、時間制約などから変更の可能性あります

- 1 マクロ経済学の概要 (第1章)
- 2 マクロ経済問題 (第1章)
- 3 国民経済計算：国民経済の構造と測定 (第2章)
- 4 財市場 (第2章)
- 5 生産性、産出高、及び雇用 (第3章)
- 6 労働市場 (第3章)
- 7 消費と貯蓄と投資 (第4章)
- 8 財市場の均衡 (第4章)
- 9 開放経済における貯蓄と投資 (第5章)
- 10 開放経済における財市場の均衡 (第5章)
- 11 長期経済成長 (第6章)
- 12 経済成長のソローモデル (第6章)
- 13 資産市場と貨幣と物価 (第7章)
- 14 貨幣市場の均衡 (第7章)
- 15 景気循環 (第8章)
- 16 景気循環の理論 (第8章)
- 17 IS-LM/AD-AS モデル (第8章)
- 18 マクロ経済均衡 (第9章)
- 19 古典派の景気循環分析 (第10章)
- 20 古典派の政策議論 (第10章)
- 21 ケインズ派：硬直的な賃金と物価の経済学 (第11章)
- 22 ケインズ派の経済政策 (第12章)
- 23 失業とインフレーション (第12章)
- 24 フィリップス曲線 (第12章)
- 25 開放経済における為替レートと景気循環とマクロ経済政策 (第13章)
- 26 開放経済のマクロ経済政策分析 (第13章)
- 27 金融政策と中央銀行 (第14章)
- 28 金融政策の効果 (第14章)
- 29 政府支出とその資金調達 (第15章)
- 30 財政政策と公的債務 (第15章)